

第5問

解説

問1 31 ④

661年にムアーウィヤ（位661～80）によって建てられた**ウマイヤ朝**（661～750）は、東はインダス川流域および中央アジアまで、西はアフリカ北西部・イベリア半島までを支配下に置いた。なお、①はローマ帝国の最大版図、②は16世紀のオスマン帝国とサファヴィー朝の領域を併せたもの、③は正統カリフ時代の領域である。

問2 32 ③

■ステップ1

まず、本問で問われている都市を特定しよう。第5代カリフであるハー룬=アッラシード（位786～809）の時代のアッバース朝（750～1258）の都は、**バグダード**である。

■ステップ2

バグダードは、第2代カリフのマンスール（位754～75）がティグリス川西岸に建設した都市で、三重の城壁を持つ円形の都市であるという特徴がある。図**あ**・**い**と文**a**・**b**について、どちらがバグダードの特徴に当てはまるかを確認しよう。

図**い**からは、この都市が**川の流域に位置していること**、**円形の都市であること**が読み取れる。したがって、図**い**がバグダードを描いたものと判断できる。

また、文**a**には「ティグリス川流域に築かれた都市」とあることから、バグダードについて述べた文と判断できる。さらに、バグダードがイスラーム世界の経済・文化の中心となり、バグダードを中心に水上交通や道路網が整備されたことを想起したい。

したがって、正しい組合せは③であるとわかる。

その他の選択肢をチェック！

図**あ** 碁盤の目状に区画が整備され、その中に宮殿などが配置されていることが読み取れる。これは中国の都城の制の特徴であり、図**あ**は唐の都の長安を描いたものである。

文**b** アラム人が内陸交易の拠点とした都市は、地中海東岸に位置するダマスカスである。ウマイヤ朝の時代には都が置かれ、現存する最古のモスクであるウマイヤ=モスクが建設された。

問3 33 ①

ブワイフ朝（932～1062）を滅ぼしたのは、中央アジアから西アジアに進出した**セルジューク朝**（1038～1194）である。建国者のトゥグリル=ベク（位1038～63）は、1055年にバグダードに入城してブワイフ朝を倒し、アッバース朝カリフからスルタンの称号を与えられた。セルジューク朝はその後、アナトリア（小アジア）やシリア沿岸にも進出し、ビザンツ帝国領を圧迫した。

資料読解

その他の選択肢をチェック！

- ② 大アミールを称したのは、ブワイフ朝の君主である。946年にブワイフ朝がバグダードを占領すると、アッバース朝カリフはブワイフ朝の君主に大アミールの称号を与えて、軍事・行政権を委ねた。
- ③ 13世紀後半のモンゴル軍の侵入に対し、エジプト・シリアを領有するマムルーク朝（1250～1517）がこれを撃退した。マムルーク朝は、モンゴル軍の侵入で滅んだアッバース朝のカリフをカイロで復活させ、また、メッカ・メディナの両聖都を保護下に置いて、イスラーム世界における権威を高めた。
- ④ キリスト教徒による国土回復運動（レコンキスタ）は、8世紀以降にイベリア半島で行われた。これにより、1492年に半島最後のイスラーム王朝であるナスル朝（1232～1492）が滅ぼされた。

問4 34 ③

各メンバーの発言について、地図と照らし合せて上で、関連する歴史事項を想起しながら確認しよう。

北野さんの発言の「西ヨーロッパ方面に進出してノルマンディー公国を建国したノルマン人は、イングランドにも進出している」は、**地図中のノルマン人の進路がフランス北部のノルマンディー公国からイングランドに至っている**ことから、正しいと判断できる。ノルマンディー公がイングランドを征服（ノルマン＝コンクエスト）したことによって、イギリス王がフランス王の臣下としてフランス国内に領土を有することとなり、それがのちに百年戦争（1339～1453）の要因の1つとなった。したがって、発言の「このことがのちに、百年戦争のきっかけの1つとなった」も正しいと判断できる。

野田さんの発言の「ノルマン人の中には、イタリア半島まで移動した人々もいる」は、**地図中のノルマン人の進路がイタリア半島に至っている**ことから、正しいと判断できる。ノルマンディー公国を建てたノルマン人の一部は南イタリアに進出し、さらにイスラーム勢力の支配下にあったシチリア島を占領して、12世紀前半に両シチリア王国を建てた。したがって、発言の「彼らはイスラーム勢力が支配していたシチリア島も占領して、両シチリア王国を建国した」も正しいと判断できる。

田中さんの発言の「東方に進出したノルマン人勢力もいる」は、**地図より、原住地のスカンディナ비아半島から東に向かったノルマン人の進路があることが読み取れる**ことから、正しいと判断できる。東方に進出したノルマン人の一派は、**ドニエプル川沿いにノヴゴロド国（9～15世紀）を建国し、その一部がさらに南下してキエフ公国を建てた**。したがって、発言の「彼らはキエフ公国や、さらに南下してノヴゴロド国を建国した」は誤りと判断できる。

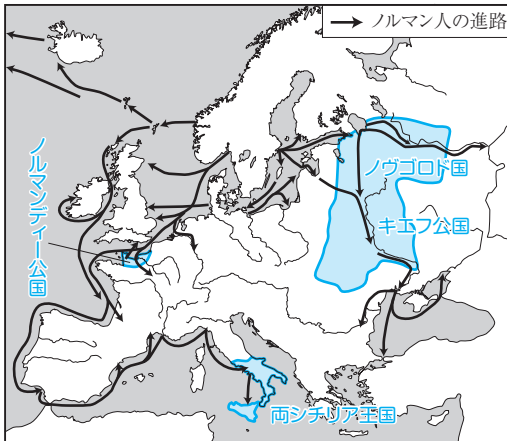
したがって、田中さんの発言が誤りであり、③が適当だとわかる。

資料読解

因果関係の考察

推移・変化の把握

▼ノルマン人の進出



問5 35 ②

パナマ地峡は、南北アメリカを結ぶ陸地の最も細い部分である。地図中の**アメリカ=ヴェスプッチの航路はパナマ地峡に至っていない**ことから、この記述は誤りと判断できる。なお、アメリカ=ヴェスプッチは南アメリカを探検し、アメリカ大陸が“新大陸”であることを明らかにした人物である。

その他の選択肢をチェック！

- ① 地図中のコロンブスの航路は、イベリア半島のスペインから発していることから、この記述は地図と合致する。コロンブスは1492年にスペインのパロス港から出航し、大西洋を横断してサンサルバドル島に到達した。
- ③ 喜望峰は、アフリカ大陸南端の岬である。地図中のバルトロメウ=ディアスの航路は喜望峰に至っていることから、この記述は地図と合致する。
- ④ トルデシリャス条約は、1494年にポルトガルとスペインの海外領土の境界線を設定した条約で、境界線よりも東をポルトガル領、西をスペイン領とした。地図を見ると、トルデシリャス条約の境界線よりも東にブラジルが位置していることから、この記述は地図と合致する。なお、1500年にブラジルに漂着したポルトガル人のカブラルが、ポルトガル領と宣言し、トルデシリャス条約に基づいてこれが認められた。

問6 36 ③

ポルトガルの都は大西洋に臨む**リスボン**である。国王マヌエル1世（位1495～1521）の命を受けた**ヴァスコ=ダ=ガマ**は、1497年にリスボンを出航してアフリカ南端経由でアジアをめざし、98年にインドのカリカットに到達した。なお、写真の建物はジェロニモス修道院である。

その他の選択肢をチェック！

バルセロナはスペイン東部の地中海に面する都市で、地中海交易の拠点として繁栄した。また、マゼラン（マガリャンイス）は、スペイン王室の支援を受けて、西まわりの世界周航を行ったポルトガル人である。マゼラン自身は航海の途中にフィリピンで死亡したが、その後、部下により世界周航が達成された。

◀ 資料読解